近代大阪における第一次ペスト流行
The First Epidemic of Plague in Modern Osaka, 1899-1900

波江 彰彦*（大阪大学）・橿原 和花（大阪大学総合学術博物館）
NAMIE Akihiko (Osaka University) and HIROKAWA Waka (The Museum of Osaka University)

キーワード：ペスト，第一次流行，疾病，近代，大阪
Keywords: plague, the first epidemic, disease, modern era, Osaka

1. はじめに

日本では、1899年から1926年にかけて断続的にペストが流行した。特に大阪は、最も多くの患者（死者）がみられた地域である。大阪では2回の流行が起こり、第一次流行（1899〜1900年）には161名の患者（死者146名、致死率90.7%）を、第二次流行（1905〜1910年）には958名の患者（死者860名、致死率89.8%）を数えた。本報告では、このうち第一次流行を取り上げる。後述する患者データベースを用いて、近代大阪における第一次ペスト流行の特徴について検討したい。

なお、橿原（2010）は、第一次流行に対する防疫行政について検討している。第二次流行については、坂口（2005）やSakaguchi et al.（2005）が分析を行っている。

2. 分析に用いた資料

大阪におけるペスト流行に関しては、第一次・第二次ともに詳細な記録が残されている。そのうち、第一次流行のものは、大阪府臨時ペスト予防事務局（1902）『明治三、三三年大阪府ペスト流行記事』1）（以下、『流行記事』とする）であり、また、おおむね内容のものはとして臨時ペスト予防事務局編（1902）『百斯駕篤選』2）がある。報告者らは、後の資料を用いて患者データベースを作成した。このデータベースには、患者の氏名、年齢、住所、職業、発病年月日、症状、死亡（治癒）年月日などが含まれている。

3. 第一次流行の概要

大阪の第一次ペスト流行は、3期に分けることができる。第1期は1899年11月〜1900年1月で41名の患者、第2期は1900年4〜6月で50名の患者、第3期は1900年9〜12月で70名の患者がみられた。

患者が示すペストの症状は、ペスト菌の感染の仕方によっていくつのタイプに分かれる。リンパ節ペスト（肺ペスト）は最も一般的な症状であり、ペストに感染した腫瘍から吸血したノミに鳴まれた付近のリンパ節が腫れる。ペスト菌が肺に回ると肺ペストを発症する。肺ペストは人から人へと感染する。ペスト菌が直接血液に入ると敗血症ペストとなり、最も致死的である。皮膚ペストは、皮膚にペスト菌が感染し膿発や腫瘍ができるものである。

こうしたことをふまえて、患者データベースを集計した結果をいくつか示す。第1表は、流行期間・患者住所別の患者数である。流行全期間では、南北的患者数が最も多く、次いで北区と南区の感染者数が最も多く、第三期では南区の患者数が最多となっている。

次に、流行期間・死別・症状別の患者数を第2表に示す。3期を通じて肺ペスト患者が最も多く、特徴的なのは、第1期における肺ペスト患者の多さと、第3期における敗血症・ペストの多さである。このうち前者については、短期間に人が人への感染が生じた結果である。このことについては、次節で説明する。また、生別別にみると、全体の患者がみられるのは肺ペストのみであり、それ以外の症状の患者はすべて死亡している。

4. 流行第1期における患者分布とペスト感染経路

次に、第一次ペスト流行における3つの波のうち、流行第1期における患者分布とペスト感染経路について検討する。

第1図は、ペスト患者とペスト駕篤の分布を示している。この図から読み取れるホットスポットは大阪市2区に2箇所あり、第1は初発付近の西区豊栄川下流域、第2は西区川北四郎島の金中米穀会社周辺である。

『流行記事』では、ペストの感染経路について詳細な分析を行っている。それによれば、第1のホットスポットについては、患者1が入室していた住宅付近で多くのペスト駕篤が発見されたことに関連づけている。他方、第2のホットスポットは、

| 第1表 流行期間・住所別患者数（人） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 北区 | 東区 | 西区 | 南区 | 他 |
| 期 | 計 | 4 | 0 | 32 | 4 | 1 | 41 |
| 1 | 7 | 1 | 35 | 1 | 6 | 50 |
| 2 | 3 | 1 | 14 | 51 | 2 | 70 |
| 合計 | 12 | 3 | 81 | 56 | 9 | 161 |
人から人への感染と推定されている。金沢総合体舎の従業員だった女性から始まり、1か月あまりのあいだに、彼女の家族と、この家の患者を診察した医師とその家族、この医師を診察した医師とその家族、そのほか最初の女性と接触のあった同居人の従業員などが次々と肺病と肺病マスで死亡した。

5. おわりに

今回用いた患者データベースからは、患者の居住地・発見地の位置関係や肺病感染経路のわかり詳細な把握が可能である。今後は「大阪地図地図」に各患者をプロットする作業を考えているが、第一次流の患者仮名は甲府県の『全社調査簿』で記載されており、「大阪地図地図」の地番とリンクしない。この点については検討中である。また、GIS を用いて、肺病患者や肺病感染経路に関する空間分析を行うことも考えている。

第2表 流行期別・生死別・症状別の患者数（人）

<table>
<thead>
<tr>
<th>症状</th>
<th>1期 生死</th>
<th>2期 生死</th>
<th>3期 生死</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>腦肺病</td>
<td>24</td>
<td>42</td>
<td>47</td>
<td>113</td>
</tr>
<tr>
<td>腦肺病</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>12</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>腦肺病</td>
<td>13</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>皮膚肺病</td>
<td>1</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>皮膚肺病</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>皮膚肺病</td>
<td>0</td>
<td>3</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>26</td>
<td>46</td>
<td>56</td>
<td>128</td>
</tr>
</tbody>
</table>

文献

大阪府臨時肺病予防事務局『明治三、三年大阪府肺病流病記』、1902。
近現代資料調査会『近代都市の衛生環境（大阪編）』、1998。
坂口 蛇『近代大阪の肺病流病、1905-1910 年』、三田学会雑誌 97-4、2005、561-581 頁。